

台風22号の事前・事後対策について

平成29年10月25日
奈良県農業水産振興課

【全般】

- ・台風が接近、通過する場合の圃場見回り等については、人命第一の観点から、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まるまでは行わないこと。特に今回は、先週からの長雨や台風21号による大雨の影響で、土砂崩れ等の危険も高まっており、風雨が収まった後も増水した水路その他の危険な場所には近づかず、転落、滑落事故等に遭わないように慎重に対応すること。
- ・野生獣侵入防止柵の設置圃場では、台風通過後に前述の内容を十分に留意して点検を行い、破損が発生した場合、修繕を行う。

1. 水稲・大豆の事前・事後対策

水 稲

- ・浸水した圃場は排水に努め、速やかに収穫する。
- ・倒伏した稲は、倒伏用デバイダの活用や、こぎ室内の送塵量の調整及び追い刈りを行い、低速走行で収穫する。
- ・高水分籾を収穫する場合は、コンバインの作業速度を下げ、とうみの回転数を上げ、こぎ室内の送塵量及び揺動部の調節を行いながら収穫する。
- ・高水分籾の乾燥にあたっては、高温による急激な乾燥を避け、始めは送風のみで予備乾燥してから加温する。適正な毎時乾減率(0.8%/時間)を維持する。
- ・倒伏したほ場では青米、茶米、死米、石の混入等が多くなりやすいので、調製を十分に

大 豆

- ・冠水および浸水した圃場は、速やかに排水に努める。
- ・紫斑病等の病害が発生しやすくなるので、台風通過後、防除に努める。

2. 野菜類の事前・事後対策

台風通過前に圃場の排水路を確保するとともに、周辺水路のつまり等による圃場への水の流入を防止するため、水路の点検を行う。

台風通過後、圃場内の水の滞留は根傷み・根腐れを起し、樹勢低下の原因となるほか、病害発生の原因にもなるので、速やかに排水対策を実施する。

イチゴ・ナス

(1) 台風通過前の対策

施設の倒壊被害対策

イチゴ

- ・天気予報等によりパイプハウスの倒壊被害が予想される場合、被覆フィルムを除去

する。育苗用の雨よけハウスでは簡易なハウスが多いので、フィルムを展張している場合、除去する。

- ・高設栽培では、培地に水分が過剰に含みベンチの重量が増加すると、強風でベンチ倒壊の被害を受けやすくなる。このため、強度に不安がある場合には、ベンチ間をパイプで連結するなどの補強を行う。

茎葉の被害防止対策

ナス

- ・露地栽培では収穫終了時期が近いため、収穫可能な果実は台風通過前に収穫する。
- ・支柱、誘引ひもの点検を行い、弱い部分の補強を行う。

(2) 台風通過後の対策

圃場の管理

イチゴ

- ・冠水および浸水した圃場では、速やかに排水を行い、根傷みを防ぐ。

病害対策

- ・イチゴでは、炭疽病の対策として、台風通過後、速やかに薬剤による予防散布を実施する。
- ・ナスでは、被害果実や被害茎葉を除去し、褐色腐敗病等の対策として、速やかに薬剤を予防散布する。冠水等によって根傷みした圃場では液肥の葉面散布を行う。

イチゴ台風通過後に散布する薬剤(本圃)

農薬の名称	作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法
セイブアーフロアブル20	いちご	炭疽病	1000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
サンリット水和剤	いちご	炭疽病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布

ナス台風通過後に散布する薬剤

農薬の名称	作物名	適用病害名	希釈倍数	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法
ホライズントライフロアブル	ナス	褐色腐敗病	2500倍	150~300ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布
ランマンフロアブル	ナス	褐色腐敗病	2000倍	150~300ℓ/10a	収穫前日まで	4回以内	散布

農薬に関する情報は、平成 29 年 10 月 11 日現在の農薬登録情報に基づいて記載しています。農薬を使用する際はラベルをよく読んで使用基準を遵守すること。

その他野菜

果菜類

- ・支柱や誘引ひものを補強し、早めの収穫を行う。
- ・傷果や茎葉などの残渣は病害発生の原因となるので、圃場外に持ち出し処分する。

葉菜類

- ・強風による被害が予想される場合には、可能であればべたがけ資材の利用等によって保護する。台風の通過によって激しい風雨に遭遇した場合は、通過後に泥汚れの洗浄を兼ねて軟腐病の防除を行う（抗生物質剤、銅水和剤など）。

3. 花きの事前対策・事後対策

- ・超簡易型防虫ネットなど、風による被害が考えられる資材は台風の影響が出るまでに被覆資材を外し、周辺に飛んでいかないように収納する。
- ・台風が通過し暴風雨などの影響が無くなった後は、可能な場合に限り被覆資材を速やかに展張し、施設内の害虫防除を徹底する。
- ・排水路の整備、通路末端の溝切りなどの排水対策を行い、根傷みや病害発生を抑える。通過後に水が溜まる場合は速やかに排水する。
- ・露地花きでは、倒伏防止のためフラワーネットや支柱の点検・補強を行う。
- ・台風の通過によって激しい風雨に遭遇した場合は、折れた茎葉の除去や適切な薬剤散布等により病害の発生抑制に努める。
- ・露地花きでは、倒伏したものはできるだけ早く引き起こし、フラワーネット等のゆるみを直して茎の曲がり防止する。
- ・天候が回復した後、被覆資材、支柱、防虫ネット等の栽培施設や資材の点検及び修復を行う。特にキク等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行う。
- ・施設花きで、直接風雨にさらされない場合でも、長時間湿度の高い状態にさらされ、灰色かび病、炭疽病等の発生しやすい状況が考えられるため、台風通過後は速やかに換気し、適切な薬剤散布等により病害発生抑制に努める。

4. 果樹の事前対策・事後対策

- ・排水対策をおこなうとともに、可能な限り添え木や支柱で樹体を固定する。
- ・枝を補強するために、隣接する樹の主枝、亜主枝を誘引しあい、強風による枝の揺れを少なくする。
- ・裂けそうな枝は、かすがいを打ち込んでおく。
- ・収穫期を迎えている果樹は、予報内容に応じて早めの収穫をおこなう。
- ・施設果樹で収穫が完了しているところでは暴風が予測される場合、被覆フィルムを取り去る。
- ・台風の通過によって激しい風雨に遭遇した場合は、病害防除を徹底する（特に、カキ炭疽病発生園では必ず薬剤防除を行う）。
- ・台風の通過後、山林が荒れることによりカメムシ類の果樹園への飛来の恐れがあるので、園地の観察をこまめに行い、カメムシ類が確認された場合はただちに薬剤防除を行う。

5. 茶の事前対策

- ・排水路の整備をおこない、降水・雨滴の衝撃を緩和するため、敷きわら、敷き草を施用する。

6. ハウスの強風対策

ガラス室

- ・基本的には強風に強いが、飛来物によってガラスが割れることがあるので、安全性を重視した対応が必要。

鉄骨ハウス

- ・被覆を完全にし、換気扇を作動させ、屋根の浮き上がりを抑える。ハウス周囲の排水を図り、基礎部分が浸水して抜けやすくなることを防ぐ。

APハウス

- ・連棟の場合、強度は十分でない。被覆を完全にし換気扇を作動させて、屋根の浮き上がりを抑える。鉄骨ハウス同様に、基礎部分の浸水を防ぐ。筋交いなど十分でない場合は補強が必要。

パイプハウス

- ・周囲の排水を図る。暴風が予測される場合、被覆フィルムを取り去る。特に雨よけハウスは簡易施設でもあり、ハウスサイド杭の強度のチェックと補修、ハウスつま面等を補強し、風害の軽減に努める。

その他

- ・被覆フィルムを取り去ることについては、除去によるリスクを考えて、待機することも考えられるが、平成 10 年の教訓から、できるだけ早く対応すべきである。最低限、ビニペットのバネの端を外すかマイカ線の間引きなど、事前にフィルムを取りやすいように準備することは必要。

(参考)

平成 16 年 6 月の風速 25 ～ 30 m の台風 12 号で、県下のハウスの 114 件（中破・小破）の被害発生

平成 23 年 9 月の台風 12 号で、県下のハウスの 643 件（全壊・大破 91 件、中破・小破 552 件）の被害発生